

主体性・協働性を育てる、地域に根ざした学校の創造

西部教育事務所 所長 平林 茂

各学校で教育目標の具現化に向け、先生方と子どもが一体となった教育活動が始まりました。

本年度、県教委では運営方針で7つの基本施策を示しました。それらのベースになっていることは、「自ら課題解決に取り組む」「地域と連携する」です。これらは信頼される学校づくりでは重要となるポイントであり、以下の点を踏まえて教育活動を展開してほしいと思います。

1 これからの学習指導のスタイルを学びましょう

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもには、自ら目標を見つけ、自ら考え、実践していく「主体性」や、様々な人と「協働する力」が求められます。これらを育成するために、教師は先を見通し、学校をあげて授業改善を進める必要があります。教師が一方向的に教える受け身の授業を脱却して、体験活動を取り入れたり、情報機器を活用したりしながら、子どもが主体的・協働的に学んでいく、課題解決的な授業への転換を教育活動の中核に据えてほしいと思います。

子ども主体の授業で教師が力を注ぐことは、①子どもの考えを本気で聴く、②コーチやコーディネーター的な指導に努める、③コミュニケーション力(子どもの一人一人の心が読める)を高める、ことです。これらの力量を一人一人の教師がどう高め、授業力を付けていくかが重要です。

そして、育てたい子ども像を明確にして、全教職員で共有し、達成に向けての学習指導のスタイルを学校をあげて学ぶ必要があります。そのためには、学力向上委員会の機能化を図り、校内研修や日常の授業実践を充実させたり、時には先進校の取組を参考にしたりするなど、実効性のある取組に挑戦してほしいと思います。

2 地域とともにある学校づくりを進めましょう

「地域創生」が喫緊の課題となっている今、学校の使命の一つに、地域を大切に、地域で生き、地域を活性化していくことに積極的に関わる子どもの育成があります。

多くの学校で、地域へ向けた情報発信や学校支援ボランティアの導入、学校施設の開放など、開かれた学校づくりを進めています。しかし、教師の個人的な取組であったり、学校と地域の双方で成果を実感できなかつたりなど、地域との結び付きが十分でない場合もあります。学校だけで子どもを育てようとしないで、学校と地域で思いや願いを話し合い、一緒になって子どもに郷土を学ばせたり、地域の豊かな資源を活用したりして、質の高い教育活動を実践することが重要です。

学校や先生方には保護者や地域と協働して、今まで以上に「学校の活性化」や「地域の学習拠点としての学校」を考え、取り組むことが求められます。そのためには、この視点を持ち、これからの学校像を俯瞰しながら、地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めてほしいと思います。

これらの教育活動を展開するためには、管理職であってもベテランの教師や新採用者、学校事務職員やスクールカウンセラー等の専門職の方であっても、まだまだ発展途上と考え、成長を目指して、ともに学び続ける教職員集団でありたいと思います。西部教育事務所も各種の学校訪問指導や研修会、指導資料等を通して、各学校の教育目標の具現化に向けてともに学び、取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



